

## 2010年（平成22年）3月期 第1四半期のご報告にあたって

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

2010年3月期第1四半期（2009年4月1日から同年6月30日までの3ヶ月）の連結業績の概要をこのウェブサイトを通じてご報告いたします。

当第1四半期における当社グループの業績は、オプト事業ではTACフィルム（液晶偏光板用保護フィルム）などの主要製品に需要回復の兆しが見られたものの、情報機器事業では企業における投資抑制や経費削減の取り組み、金融不安に伴うリース与信の厳格化などの影響が長引き、オフィス向けMFP（デジタル複合機）やプロダクションプリント向け高速MFPの販売は想定以上に厳しい状況となりました。これらの結果、売上高は前年同期間（2008年4月から6月までの3ヶ月）と比べるとUSドルやユーロに対する影響も加わり657億円減収、直前四半期（2009年1月から3月までの3ヶ月）と比べると117億円減収の1,894億円となりました。営業損益につきましては、前年同期間と比べると250億円減少し、5億円の損失となりましたが、当社グループをあげて取り組みを進めている構造改革や研究開発費など諸経費の削減努力にオプト事業の増収効果が加わり、直前四半期から65億円改善しました。経常利益及び四半期純利益につきましても直前四半期での損失計上から大きく改善し、いずれも当第1四半期では黒字転換しました。

このように、本年4月に策定した経営方針<09-10>で重要課題のひとつとして掲げた固定費削減は計画通り進捗しており、また、減収減益の状況にあってもフリーキャッシュフローは確実に確保することができました。

各事業の詳細につきましては、[営業概況](#)の中でご説明しておりますのでご高覧ください。

第2四半期（2009年7月から9月までの3ヶ月）以降も、当社関連市場における最終需要の動向や価格変動、USドルやユーロなどの為替動向など、当社グループを取り巻く事業環境は厳しい状況が続くものと予想されます。このような状況の中で、当社グループは、情報機器事業を中心として売上確保のための拡販に注力するとともに、[経営方針<09-10>](#)に沿って企業体質改革に全力を挙げて取り組んでまいります。同時に将来の「強い成長の実現」に向けた取り組みを実行してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2009年8月

コニカミノルタホールディングス株式会社  
代表執行役社長  
松崎 正年

## 連結財務ハイライト

(単位：億円、未満切捨)

	2010年3月期 第1四半期	2009年3月期 第1四半期	増減	(参考) 2009年3月期 第4四半期	増減
売上高	1,894	2,551	△657	2,012	△117
営業利益 (△は損失)	△5	244	△250	△71	65
経常利益	6	279	△273	△86	92
四半期純利益	2	176	△173	△121	124



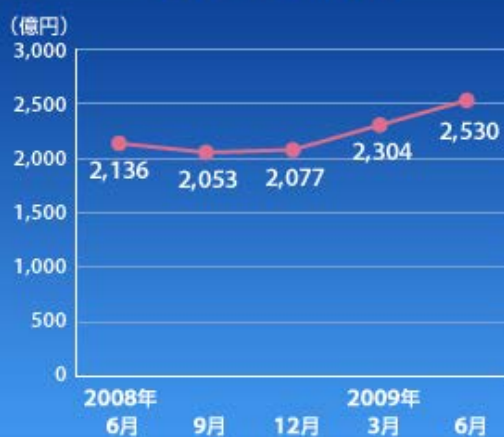
(単位：億円、未満切捨)

	2010年3月期 第1四半期末	2009年3月期末	増減
総資産	9,070	9,180	△110
負債	4,963	5,037	△74
純資産	4,106	4,142	△36
自己資本比率(%)	45.2	45.0	0.2
有利子負債	2,530	2,304	226

自己資本比率の推移



有利子負債残高の推移



(単位：億円、未満切捨)

	2010年3月期 第1四半期	2009年3月期 第1四半期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	142	222	△79
投資活動によるキャッシュ・フロー	△91	△315	223
フリー・キャッシュ・フロー	51	△92	144
財務活動によるキャッシュ・フロー	154	△212	367
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,539	941	597

## 営業概況（2009年4月1日～同年6月30日）

売上高

**1,894** 億円  
(前年同期比  $\Delta$ 25.8%)  
(直前四半期比 117億円の減収)

情報機器事業ではオフィス用カラーMFP（デジタル複合機）やプロダクションプリント用高速MFP、オプト事業ではBD（ブルーレイディスク）用光ピックアップレンズなどが、昨年秋以降の世界的な需要の急減速の影響で大きく減少したことに加え、円高による為替換算影響約198億円の減収要因がありました。

営業損失

$\Delta$  **5** 億円  
(前年同期は244億円の営業利益)  
(直前四半期比 65億円の改善)

経常利益

**6** 億円  
(前年同期比  $\Delta$ 97.8%)  
(直前四半期比 92億円の改善)

四半期純利益

**2** 億円  
(前年同期比  $\Delta$ 98.3%)  
(直前四半期比 124億円の改善)

営業損失は、売上減少及び円高影響による売上総利益の減少に対して、構造改革や研究開発費など諸経費の削減に努めましたが、5億円の営業損失となりました。

経常利益は、為替差益などにより11億円の収益超過となったことにより、6億円となりました。

法人税等及び少数株主利益を差し引いた結果の四半期純利益は2億円となりました。

## 直前の四半期（2009年3月期第4四半期：2009年1月～3月）との比較

### オプト事業ではTACフィルム（液晶偏光板保護フィルム）を中心に回復傾向

売上高は、直前四半期から117億円（5.9%）減収となりました。情報機器事業およびメディカル&グラフィック事業では市況低迷による販売減少が続きましたが、オプト事業ではTACフィルムを中心に顧客の在庫調整が一巡し、販売数量は概ね回復傾向へ転じました。

### 経常利益・税金等調整前四半期純利益・四半期純利益、すべて黒字転換

営業利益は、構造改革効果や研究開発費など諸経費の削減効果にオプト事業の増収効果が加わり、直前四半期から65億円改善しました。経常利益は92億円改善（直前四半期は86億円の損失）しました。税金等調整前四半期純利益は、177億円改善（直前四半期は173億円の損失）、また、四半期純利益も124億円改善（直前四半期は121億円の損失）しました。

## 財政の状況

総資産

9,070 億円 (前期末比 △110億円)

流動資産は前期末比29億円減少の5,019億円となり、固定資産は前期末比81億円減少の4,050億円となりました。

## 流動資産

手元資金としては1,539億円（前期末比202億円増加）となりました。

一方、売上高の減少に伴い売上債権は、1,626億円（前期末比91億円減少）となりました。また、たな卸資産は、生産調整の実施等により1,169億円（前期末比122億円減少）となりました。

## 固定資産

有形固定資産は設備投資の抑制を行い、2,224億円（前期末比54億円減少）となりました。また、無形固定資産も償却が進み、1,080億円（前期末比35億円減少）となりました。投資その他の資産は、株価が回復したことなどにより、745億円（前期末比9億円増加）となりました。

負債

4,963 億円 (前期末比 △74億円)

流動負債は前期末比242億円減少の2,865億円となり、固定負債は前期末比168億円増加の2,097億円となりました。

有利子負債（長短借入金と社債の合計額）については、手元資金を手厚くしていることもあり、226億円増加の2,530億円となりました。

純資産

4,106 億円 (前期末比 △36億円)

1株当たり純資産額 772.60円 (前期末比 △6.93円)

自己資本比率 45.2% (前期末比 +0.2ポイント)

利益剰余金は、主として当四半期純利益の計上による増加が2億円ありましたが、配当金の支払いによる減少53億円などにより、1,804億円（前期末比50億円減少）となりました。

## キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フロー

142 億円 (前年同期比 △79億円)

税金等調整前四半期純利益4億円、減価償却費153億円、運転資本の好転27億円などによるキャッシュ・フローの増加がありました。一方、賞与引当金の減少51億円、未払金及び未払費用の減少28億円などの支出がありました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

△91 億円 (前年同期比 +223億円)

主に、情報機器事業における新製品のための金型投資及び戦略事業であるオプト事業における生産能力増強に係る設備投資によるものです。

フリー・キャッシュ・フロー

51 億円 (前年同期比 +144 億円)

財務活動によるキャッシュ・フロー

154 億円 (前年同期比 +367 億円)

配当金の支払い53億円及び、手元資金の確保を目的とした借入によるものです。

## セグメント別営業概況

※直前四半期比（2009年1月から3月の3ヶ月）との比較

当四半期（2009年4月から6月の3ヶ月）の業績の比較対象として、前年同四半期（2008年4月から6月の3ヶ月）との比較に加え、現況との関連性が強い直前四半期との比較数値を参考として掲載しています。

### 情報機器事業：MFP（デジタル複合機）、プリンタなど

企業の設備投資抑制および信用収縮に伴う市況の悪化が続き、オフィス用MFP・プロダクションプリント用MFPともに伸び悩む

売上高

1,272 億円

(前年同期比  $\Delta$ 23.7%)  
(直前四半期比  $\Delta$ 7.4%)

営業利益

2 億円

(前年同期比  $\Delta$ 98.6%)  
(直前四半期比  $\Delta$ 95.0%)

#### オフィス用カラーMFP：

「bizhub（ビズハブ）C652/C552」の2機種を発売し、高速領域での商品競争力を強化しました。これらはいずれも、重合法トナーによる高画質、最新のセキュリティ機能やネットワーク機能を装備するとともに、業界トップクラスの省電力設計や長寿命部品の採用によりお客様のコスト削減に貢献することを訴求した新製品です。当四半期のカラーMFPの販売数量は、世界的に景気後退が長引く中、日本市場では前年同期並みを確保しましたが、主力とする欧米市場ではいずれも前年同期を下回りました。モノクロMFPの販売数量は、北米市場では昨年6月に実施したDanka Office Imaging（ダンカ）社の買収効果もあり前年同期並みを確保しましたが、それ以外の市場では前年同期を下回りました。

#### プロダクションプリント分野：

業界初の高彩度トナーを搭載した「bizhub PRO（ビズハブプロ）C65hc」などの高速カラーMFPを核に、事業領域の拡大に取り組みましたが、プロダクションプリント用高速MFPの販売数量は、景気後退の影響を受け国内外市場で前年同期を下回りました。

#### プリンター分野：

一般オフィス向けにタンデム方式のA4プリンターやA4カラー複合機などの販売強化に取り組んだ結果、販売数量は前年同期を上回りました。

### オプト事業：光学デバイス、電子材料など

昨年秋以降のデジタル家電メーカー各社による急激な減産の影響は概ね底を打ち、一部の製品で需要回復を示すが、価

## 格下落による影響を受ける

売上高

**339** 億円

(前年同期比  $\Delta$ 33.4%)  
(直前四半期比  $+$ 26.3%)

営業利益

**16** 億円

(前年同期比  $\Delta$ 81.2%)  
(直前四半期比 **85** 億円の改善)

### ディスプレイ部材分野：

戦略製品である大型液晶テレビ用VA-TACフィルム（視野角拡大フィルム）の新製品を中心に販売拡大に努めました。各国の景気刺激策を背景とした液晶パネルメーカーの生産状況の回復に伴い、当社の販売数量は過去最高水準であった前年同期並みに戻りました。

### メモリー分野：

主力製品であるBD用光ピックアップレンズの販売拡大に努めました。民生電機メーカー向けには顧客の在庫調整が終わり、需要環境は回復傾向を示したものの、PC用途向けは需要が弱く、ピックアップレンズ全体としての販売数量は前年同期を下回りました。

ガラス製ハードディスク基板も当四半期後半に入って漸く需要が回復しましたが、販売数量は前年同期を下回りました。

### 画像入出力コンポーネント分野：

カメラ付携帯電話用レンズユニットやデジタルカメラ用ズームレンズなどの販売拡大に努めました。需要環境は概ね回復傾向にありますが、販売数量は前年同期を下回りました。

## メディカル&グラフィック事業：医療用・印刷用製品など

### 開業医・クリニック向けのデジタル機器の販売は国内外で健闘

売上高

**237** 億円

(前年同期比  $\Delta$ 24.2%)  
(直前四半期比  $\Delta$ 24.1%)

営業利益

**8** 億円

(前年同期比  $\Delta$ 41.4%)  
(直前四半期比 **19** 億円の改善)

### 医療・ヘルスケア分野：

デジタルX線画像入力機器やシステムなどデジタルソリューションビジネスに注力し、病院市場向けには高画質DRシステム「PLAUDR（プラウディア）C30/C50」を、診療所など小規模な医療施設向けには小型CR「REGIUS（レジウス）MODEL 110」などデジタルX線画像入力機器及びシステムの販売強化に取り組みました。これらデジタル入力機器は国内外市場で広く受け入れられ、当四半期の販売台数は市場環境が厳しい中、前年同期比微増となりました。

### 印刷分野：

オンデマンド印刷機などデジタル機器の販売拡大に取り組みましたが、景気悪化の影響を受けて厳しい状況が続く印刷業界では新規設備の凍結や延期の傾向が一層強まり、販売は低調に推移しました。

## 計測機器事業：色計測機器、医用計測機器、三次元計測機器など

## 製造業の設備投資抑制の影響を受け、販売数量は伸び悩む

売上高

14 億円

(前年同期比  $\Delta$ 40.3%)

(直前四半期比  $\Delta$ 22.6%)

営業損失

$\Delta$ 2 億円

(前年同期比 3 億円の減益)

(直前四半期比 1 億円の減益)

光源色、物体色、三次元の主要計測分野における主力製品の販売拡大に努めました。三次元計測分野では、非接触三次元デジタイザの新製品「RANGE 5 (レンジファイブ)」の発売を開始しました。また、環境関連製品強化の一環として、太陽電池評価装置の取り扱いを開始するなど、新製品や新分野への取り組みを強化しましたが、世界的な経済環境の悪化により、日米欧など主力市場における製造業の設備投資抑制による影響のため、販売数量は伸び悩みました。



連結財務諸表（要約）

貸借対照表

（単位：百万円、未満切捨）

	2010年3月期 第1四半期末 (2009年6月30日)	2009年3月期末 (2009年3月31日)
現金及び預金	82,475	85,753
受取手形及び売掛金	162,666	171,835
たな卸資産	116,908	129,160
その他	139,936	118,170
流動資産合計	501,987	504,919
有形固定資産	222,430	227,860
無形固定資産	108,038	111,623
投資その他の資産	74,560	73,654
固定資産合計	405,028	413,138
資産合計	907,016	918,058
支払手形及び買掛金	66,985	87,105
有利子負債	253,041	230,409
その他	176,316	186,258
負債合計	496,343	503,773
資本金	37,519	37,519
資本剰余金	204,140	204,140
利益剰余金	180,442	185,453
自己株式	△1,664	△1,662
株主資本合計	420,437	425,451
評価・換算差額等合計	△10,735	△12,070
新株予約権	504	460

少数株主持分	465	444
純資産合計	410,673	414,284
負債純資産合計	907,016	918,058

連結財務諸表（要約）

損益計算書

（単位：百万円、未満切捨）

	2010年3月期 第1四半期 (2009年4月1日～2009年6月30日)	2009年3月期 第1四半期 (2008年4月1日～2008年6月30日)
売上高	189,439	255,139
売上原価	109,764	135,208
売上総利益	79,675	119,931
販売費及び一般管理費	80,265	95,453
営業利益又は営業損失（△）	△589	24,478
営業外収益	3,572	5,714
営業外費用	2,380	2,254
経常利益	602	27,938
特別利益	1,100	5,948
特別損失	1,299	3,130
税金等調整前四半期純利益	403	30,756
税金費用	119	13,134
少数株主損失（△）	△15	△6
四半期純利益	299	17,628

連結財務諸表（要約）

キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円、未満切捨）

	2010年3月期 第1四半期 (2009年4月1日～2009年6月30日)	2009年3月期 第1四半期 (2008年4月1日～2008年6月30日)
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	14,284	22,225
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,143	△31,512
I+II. フリー・キャッシュ・フロー	5,140	△9,286
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	15,427	△21,297
IV. 現金及び現金同等物に係る換算差額	△321	2,074
V. 現金及び現金同等物の増減額 (減少:△)	20,246	△28,510
VI. 現金及び現金同等物の期首残高	133,727	122,187
VII. 連結範囲変更に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	498
VIII. 現金及び現金同等物の四半期末残高	153,973	94,175

## トピックス

### 経営関係

---



コニカミノルタグループ経営方針 <09-10> 発表

› [詳細情報 \(PDF:344KB\)](#)

### 事業関係

---



「bizhub PRO C65hc」がEDP award 2009 を受賞

› [プレスリリース](#)

› [製品紹介](#)



耐衝撃性に優れた指先一体型パルスオキシメータ  
「PULSOX-1」新発売

› [プレスリリース](#)

› [製品紹介](#)



高速デジタル複合機「bizhub PRO 1200/1200P」新発売

› [プレスリリース](#)

› [製品紹介](#)

### CSR関係

---



新設の「オフィス機器」分野でカナダの環境保護マーク  
「EcoLogo」認証を初取得

› [プレスリリース](#)

› [製品情報](#)



「コニカミノルタ エコ俳句大賞2009」の作品を募集中

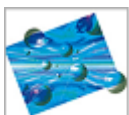
› [詳細情報](#)



地球を知り、守る、環境WEBサイト「GLOBE BANK」を公開

### その他

---



「平成21年度 コニカミノルタ画像科学奨励賞」を公募

› [プレスリリース](#)

› [詳細情報](#)



コニカミノルタプラネタリウム“満天”の皆既日食番組を多くのテレビ・新聞が紹介